学校教育施設

屋内運動場（体育館）

- バスケット2面並列
  - 35m×45m程度（成人用）
  - 32 ×41m程度（高校）
- バレーボール
  - 12.5m以上（センターライン）
  - 10.5ｍ以上（エンドライン）
- 屋内テストコート
  - 12m以上
- 長軸：東西方向
- 最低天井高：７m以上

各室計画

- 普通教室
  - 7m×9m
  - 1.6m２　（児童一人当たり）
  - 内装の木質化計画
- 特別教室
  - 高学年の近く
  - 理科室
    - 小学校　2.0～2.5m2/人
    - 中学校　3.0m2/人
- 図書室
  - 学校の中心に配置
  - 貸出用のカウンターの高さ
    - 70～80㎝
- 職員室
  - 不審者の侵入防止等
- 廊下の幅員
  - 片廊下：1.8m以上
  - 中廊下：2.3ｍ以上
- 教室の天井高さ
  - 2.7m
  - 基準：改正あり
  - 居心地のよさや落着き感に考慮
- 学校給食施設
  - 児童一人当たり：0.1㎡/人
  - 調理室、調理従事員食糧貯蔵室等
- 児童用の階段
  - 蹴上げ：15cm以上
  - 踏面：28cm以上
  - 幅：140cm以上
  - 手すり：床からの高さ：110cm以上
  - 手すり子の間隔：11cm以下
- 教室内環境
  - 床面積の1/5以上
    - 有効採光面積
  - 照度　200～750lx（５００lx以上）
  - 換気：３～4回/h

校地・校舎の計画

- チームティーチング
  - 複数の先生が担当
- 無学年制
  - 学年の枠をなくす
- プログラム学習
  - オープンスペース
  - フレキシブルな学習
- 通路：校舎全体の30～35%
- 校舎配置
  - 低学年、高学年
  - ゾーン分離
- 上下足の履き替え方式
  - 下足ゾーン側：上足入れ
  - 上足ゾーン側：下足入れ

保育所・幼稚園

- 乳児室の面積
  - 1.65m2/人
  - 保育室と兼用X
- ほふく室の面積
  - 保育室と兼用X
  - 3.3m2/人
- 保育室・遊戯室
  - 1.98m2/人
  - 兼用OK
- 1階配置
  - 保育室・遊戯室・便所
- 3歳児/保育室床面積
  - 4、５歳児より広く
- 便所の扉
  - 100～120cm
  - 見守れる高さ
- 飲料水用設備
  - 手洗いや足洗いは別
  - 足洗い場
    - 床勾配；2～５％程度
  - 手洗い場
    - 高さ；床面から 40～50cm

幼保連携型認定こども園

- 幼稚園と保育園
  - 両方の機能を持つ
    - 都道府県から認定
  - 教育・保育・子育て支援を一体提供
- 原則、2階建て
  - 園庭は園舎と同一の敷地内→目指す
- 調理室
  - 原則、独立させる
    - 園内で調理、提供の場合
  - 園児：20人以上
    - 備えなければならない

学校運営

- 総合教室型
  - 小学校；低学年
- 特別教室型
  - 普通教科はクラスルームで行い、実験や実習の授業は特別教室で行う教科教室型を採用した
  - 小学校；高学年
    - 理科、図工、音楽などを専用教室で
- 教科教室型
  - 中学校、高等学校、大学
  - 全教科の授業を専用教室で行う
    - 生徒、学生が移動していく
  - 各教科で専用の教室をもち、生徒が時間割に従って教室を 移動して授業を受ける

教室の形態・長所・短所

指定避難所

- マンホールトイレ
  - 人目に付きやすい場所
    - 居住エリアの近く
  - 災害時の応急トイレ
  - 男女別
    - 動線の分離
- 学校/生活区画や動線の計画
  - 教育活動を早期に再開
  - 避難所機能と教育機能
- 備蓄倉庫
  - 行政の防災担当部局等
    - 協議
  - 安全な場所
- 屋外プールの水
  - 可搬式のポンプ
  - トイレの洗浄水等に利用
    - 生活用水の確保

R3 4

建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 小学校の計画に当たり、インクルーシブ教育システム構築のため、障害のある児童と障害のない児童とが、交流及び共同学習できる施設とした。

2 ． 病院の計画に当たり、医療行為を中断することなく設備更新が行えるように、手術室のある階の上階に設備階（インタースティシャル・スペース）を設けた。

3 ． ホテルの一般客室を、車椅子使用者用客室へ改修するに当たり、二つの客室の間仕切り壁を撤去して一室化し、客室内にスロープを設置し、客室全体の床の高さを、トイレ・浴室等の床の高さと合わせた。

4 ． 図書館の計画に当たり、地上階に開架書庫や地域住民が利用する施設等を配置したので、半地下階に貴重書保存用書庫を設け、年間を通じて自然換気を行うこととした。 ✕

R3 7

建築物内で発生する音に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 室内の反射音を防ぐために、壁と天井の仕上げに孔あき板を採用し、低音域の吸音率を向上させるために、その仕上げとコンクリート躯体との間に空気層を十分に確保した。

2 ． 音圧が極端に弱くなることにより、音が聞こえにくくなる場所（デッドスポット）の発生を防ぐために、天井面や壁面を大きな凹曲面で構成した。 ✕

3 ． **オープンプラン型の小学校**において、隣接する教室からの音の伝播を防止するため、廊下の天井の仕上げに表面をガラスクロスで覆ったグラスウールを使用した。

4 ． 隣り合う部屋の間仕切りにおいて、せっこうボードを両面張りとした壁の遮音性能を向上させるため、共通間柱構造から、壁のボードを各面ごとに別々の間柱に取り付ける独立間柱構造に変更した。

R3 15

公共建築物等の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 福岡市立博多小学校（福岡県）は、**オープンプラン型を**採用し、旧来型の職員室の代わりに壁のない教員コーナーやワーキングスペースを設けることで、複数の教員で児童を見守ることのできる空間整備が行われた。

2 ． 立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府）は、工場跡地において、官民が連携し、防災公園と一体化して計画された。

3 ． 石巻市庁舎（宮城県）は、百貨店を転用したもので、既存エスカレーターをそのまま活用し、売り場は執務スペースへ、映画館は議場へと改修された。

4 ． 大田区役所本庁舎（東京都）は、1960　年代に建てられた民間の事務所ビルを転用したもので、外部及び内部デザインを継承しながら、 3 階エントランスは各種イベントに対応できるように、設備改修が施された。 ✕

R5 15

公立小学校・中学校等の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 施設一体型の義務教育学校の計画において、小・中学校段階の教職員が連携し、教育内容の充実や学校運営の円滑化を図るため、共同の職員室とした。

2 ． 特別支援学校の計画において、聴覚障害児童・生徒に対応するため、普通教室に発音・発語の練習に利用する鏡や、練習後の手洗いやうがいのための流し台を設けた。

3 ． 小学校の図書室と公立図書館とを一体整備した小学校の計画において、**建築物移動等円滑化誘導基準**に合わせ、両側居室の廊下幅を １．８ mとした。 ✕

4 ． 小学校の内装の木質化計画において、板材単体での吸音性能は低いので、普通教室の天井や壁に木板を表面材とした孔あき板等を用いることで、残響過多とならないように配慮した。

H26 6

建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．児童数 700人の小学校の計画において、学校内に学校給食施設(調理室、調理従事員室、食糧貯蔵室等)を設置するため、その床面積を、49m2とした。 ✕

2．事務所ビルの計画において、収容人員 12人程度の会議室の内法寸法を、５m×10mとした。

3．シティホテルの計画において、収容人員 100人程度の着席形式の結婚披露宴ができるように宴会場の床面積を、250m2とした。

4．自走式の立体駐車場における自動車の車路の計画において、傾斜部の本勾配を１/6とし、傾斜部の始まりと終わりのそれぞれの長さ６mの部分の緩和勾配を -1/12とした。

H27 8

建築物の各部寸法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．小学校における児童用の階段において、踏面の寸法を 28cm、蹴上げの寸法を 15cmとし、墜落防止手摺の手摺子間の内法寸法を **11cm**とした。

2．劇場において、座席の幅(１人分の間口)を 55cmとし、前後間隔(背もたれ相互の間隔)を 95cmとした。

3．図書館において、貸出用のカウンターの高さを、子どもや車椅子使用者に配慮して、 床面から 85cmとした。 ✕

4．自転車の駐輪場において、１台当たりの駐輪スペースを 70cm×190cmとした。

H29 6

建築物の各部の寸法等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．事務所ビルの事務室において、椅子に座った状態で室内の見通しをよくするためにパーティションの高さを床面から 110cmとした。

2．幼稚園において、子ども用足洗い場については床に５％程度の勾配をとり、子ども 用手洗い場についてはその高さを床面から 65cmとした。 ✕

3．小学校において、居心地のよさや落着き感に考慮しつつ、教室の天井高さを **2.7**mとした。

4．病院の４床室の病室において、隣り合うベッドとベッドの間に幅１m以上のスペー スを確保するため、その床面積を患者一人につき８m2とした。

H27 15

公共建築の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．客席数 1,600席のコンサートホールの計画において、音響が安定しているシューボックス型を採用した。

2．一般的な総合病院の計画において、外来部門の床面積の割合を、延べ面積の 13%とした。

3．人口 50万人の都市にある市庁舎の計画において、転入・転出等の届出の受理や証明書の発行等を行う窓口事務部分の床面積の割合を、延べ面積の８％とした。

4．24クラスの小学校の計画において、普通教科はクラスルームで行い、実験や実習の授業は特別教室で行う教科教室型を採用した。 ✕

H28 8

建築物の各部の寸法等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．中規模事務所ビルの計画において、基準階の共用部の主要な廊下の幅員を、2.0mとした。

2．公共体育館の計画において、成人用バスケットボールコートを二面配置するために、 床面の内法寸法を、30m×35mとした。 ✕

3．バスターミナルの誘導車路の屈曲部の計画において、全長 12m程度の大型バスの最小回転半径を、12mとした。

4．大規模量販店の計画において、売場の客用通路の幅員は、主要な避難通路を 3.0mとし、それ以外の通路を 1.8mとした。

H30 16

幼保連携型認定こども園の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．園舎は、地上２階建てとし、園庭は園舎と同一の敷地内に設けた。

2．園児のための諸室として、ほふく室、保育室、遊戯室及び便所を設け、ほふく室と遊戯室を兼用する計画とした。 ✕

3．飲料水用設備を、手洗い用設備や足洗い用設備とは別に設けた。

4．食事の提供をすべき園児数を ２５人とする計画であったので、独立した調理室を設けた。

R2 8

建築物等の各部の寸法等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 公共体育館の計画において、**成人用バスケットボールコート**を二面配置するため、床面の内法寸法を、40 m ×50 mとした。

2 ． 屋内の公式試合用の硬式テニスコートについて、ネット上部の天井高を、13 mとした。

3 ． 競技場の観客席の固定座席の計画において、座席の幅（１人分の間口）を 45 cmとし、前後間隔（椅子の背の間隔）を 85 cmとした。

4 ． 屋内駐車場の計画において、一方通行の小型自動車の車路のうち、車路に接して駐車料金の徴収施設が設けられている場所で、歩行者の通行の用に供しない部分の幅員を、2.5 mとした。 ✕

R2 17

子どもに関わる施設に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 幼稚園と保育所の施設を共用化した認定こども園において、遊戯室、調理室、管理諸室、屋外環境等は幼稚園と保育所の共用の空間として計画した。

2 ． 総合病院における小児患者のための病床は、疾病ごとの特徴に対し的確に対応できるように、診療科ごとにそれぞれ設けた。 ✕

3 ． 放課後等デイサービス事業所において、屋外遊びを豊かにするために、学校と連携して校庭等を有効に活用した。

4 ． 義務教育学校（小中一貫校）の**特別支援学級関係室**においては、 9 年間の系統性・連続性のある 教育活動や一貫した支援を効果的に行えるように、**小学校と中学校の配置や室構成を計画**した。

R元 5

防犯計画等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 事務所の計画において、公道から敷地内や建築物内、事務室等への動線は、セキュリティレベルの低いほうから高いほうへ連続させることが望ましい。

2 ． 小学校の計画において、不審者の侵入防止等に配慮して、職員室は運動場や出入口を見渡すことのできる位置に配置することが望ましい。

3 ． 住宅地の計画において、ラドバーン方式は、心理的効果を考慮した設計によって、犯罪抑止効果を高める手法である。 ✕

4 ． ゲーテッド・コミュニティは、住宅地をフェンスや壁等で囲い、出入口にゲートを設けて、住民以外の人や車両の出入りを制限した居住地区である。

R元 8

公立小学校・中学校の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 既存の中学校の校舎を小中一貫教育を行う義務教育学校に変更する計画に当たり、階段に、手摺、滑止め等の安全上の措置を講じることにより、蹴上げの高さを変更しなかった。

2 ． 中学校の計画に当たり、各教科で専用の教室をもち、生徒が時間割に従って教室を移動して授業を受ける総合教室型とした。 ✕

3 ． 普通教室（40 人）の広さは、多様な学習形態に対応する机、家具等の配置が可能な面積、形状を考慮し、 9 m× 8 mとした。

4 ． 特別の支援を必要とする児童が通常の学級に在籍する場合を想定し、その児童が落着きを取り戻すことのできる小規模な空間を、普通教室に隣接して設けた。

H30 15

小学校を指定避難所として使用する場合の対応の方法に関する次の記述のうち、最も 不適当なものはどれか。

1．避難した人が利用するマンホールトイレは、居住エリアから離れた人目に付きにくい場所に設置できるように計画することが望ましい。 ✕

2．屋外プールの水は、可搬式のポンプを用いて、トイレの洗浄水等に利用することができるように計画することが望ましい。

3．小学校の教育活動を早期に再開するために、避難所機能と教育機能の区画や動線が分けられるように計画することが望ましい。

4．備蓄倉庫は、行政の防災担当部局等と協議して、想定される災害に対して安全な場所に計画することが望ましい。